

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

2月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.228 2026.2

紹介内容 (1/1~1/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 大河原農改：農業雇用セミナー「農業における雇用のキホンのキ」を開催しました
 - 登 米農改：地域計画実現に向けた農地集積・集約化研修会を開催しました
 - 仙 台農改：仙台地域農業経営セミナーを開催しました！
 - 石 巻農改：農業法人の経営力強化研修会を開催しました
 - 仙 台農改：家族経営協定研修 ～一緒に描く未来のかたち～ が開催されました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 亶 理農改：「輝く女性農業者のための美肌習慣。プロが教える「攻めの」の紫外線対策！」を開催しました
 - 石 巻農改：女性農業者キャリアアップ講座を開催しました

- ③ 先端技術等の推進・普及による園芸産地の育成・強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 登 米農改：令和7年度登米地域スマート農業推進セミナーを開催しました
 - 仙 台農改：令和7年度水稲乾田直播栽培総合検討会を開催しました！
 - 仙 台農改：令和7年度仙台地方米づくり推進本部～水稲乾田直播栽培講習会～を開催しました！

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 気仙沼農改：南三陸ぶどう栽培せん定研修会を開催しました
 - 大河原農改：あじわいの朝友の会種苗勉強会が開催されました
 - 亶 理農改：JA仙台岩沼ハウス組合促成胡瓜現地検討会が開催されました
 - 登 米農改：JAみやぎ登米りんご生産部会せん定講習会・防除暦説明会が開催されました
 - 石 巻農改：令和7年度河南トマト部会出荷反省会が開催されました

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 登 米農改：令和7年産稲作の総合検討会が開催されました
 - 登 米農改：「乾田直播とカメムシから今後の稲作を考える」をテーマに研修会を開催 しました
 - 亶 理農改：JA仙台亶理地区水田営農部会研修会が開催されました

- ⑥ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 仙 台農改：組織マネジメント研修会を開催しました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 要請・緊急・その他 7
- 大河原農改：第2回大河原地域農業普及活動検討会を開催しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

- 農業雇用セミナー「農業における雇用のキホンのキ」を開催しました
令和8年1月13日
大河原農業改良普及センター



令和7年12月19日、雇用に関する基本知識習得と農作業安全推進を目的に農業雇用セミナーを開催し、農業者、関係機関合わせて35人が出席しました。

研修は2部構成で、前半は「労務管理」をテーマに、特定社会保険労務士の松倉恵子氏より、人を雇うときのルールについて説明がありました。「雇用」と「請負」の違いについて具体例を示した解説によって、参加者は今後想定される人手不足に対応した労働環境の整備の必要性について再確認しました。

後半は「農作業安全」について農研機構機械研究部門の志藤博克主任研究員より講義が行われ、農作業事故の起きる要因や事故の及ぼす影響について事故事例を基に説明がありました。研修後のアンケートでは、農作業事故に対する関心が増加するなど、農作業安全に対する意識の向上が見られました。

普及センターでは、今後も持続可能な農業の実現に向け、労務管理や農作業事故防止に向けた研修会等を実施して参ります。

- 地域計画実現に向けた農地集積・集約化研修会を開催しました
令和8年1月22日
登米農業改良普及センター



令和8年1月19日、登米市豊里公民館を会場に、「地域計画実現に向けた農地集積・集約化研修会（豊里地区協議の場）」が開催（主催：登米市、登米市農業委員会、東部地方振興事務所登米地域事務所）され、担い手をはじめ、農業委員、農地利用最適化推進委員など関係者を含め約60名が参加しました。

研修会は、第1部として「農地の利用をどう進めるか 活力ある地域づくりに向けて」と題した講演会、第2部は「豊里地区の農業担い手による意見交換会」が行われました。

株式会社ノースエム代表取締役 宮村昌吾氏（本社：北海道札幌市）に第1部の講師、第2部のファシリテーターを務めていただきました。講演では先進地の事例を含めながら、農地集積・集約化の進め方について、意見交換会では、参加した担い手から、現状の課題、改善要望等を引き出してもらい、参加者一同で共通認識を持つことができました。

今回の意見交換会で得られた課題や要望については、地域計画の実現に向けて関係者間で検討を進め、農地集積・集約化の推進につなげていきます。

- 仙台地域農業経営セミナーを開催しました！
令和8年1月23日
仙台農業改良普及センター



令和7年12月18日、「待ったなし！」農業法人の後継者確保・育成と題して、セミナーを開催し、管内11の法人が参加しました。

始めに、松倉社会保険労務士事務所代表の松倉氏から、円滑な事業継承の進め方や、次世代に向けた経営者としての心構えについて、講義をいただきました。

次に、株式会社館島田ファーム Dero 代表取締役の大泉氏から、法人化の歩みと社員から代表になるまでの経験や意識の変化などについて紹介をいただきました。

参加者からは、「セミナーの内容は、採用予定者の育成にすぐ応用できそう」などの感想もあり、参加者

の皆さまにとって、課題解決への意欲を再確認する機会となったようでした。

今後とも関係機関と連携し、農業後継者の確保・育成を支援してまいります。

○農業法人の経営力強化研修会を開催しました 令和8年1月26日 石巻農業改良普及センター



令和8年1月14日に、農業法人の経営力強化研修会を開催し、「人材採用の視点から魅力ある職場を考える」をテーマに、社会保険労務士の松倉恵子先生から講演をいただきました。

参加者からは「社員を育成することを学び新しい人材を採用したい。」「採用には費用をかけて長く勤められる人を育てたい。」「法人化して間もなく、将来の採用のために参加した。」等の話がでており、人材の採用や育成について関心が高いことが伺えました。

また、求人票の記載については、実際にハローワークに掲載されている法人、個人の求人票を比較しながら、より具体的に仕事内容や会社の特徴、季節ごとの就業時間等を記載する、特記事項には、研修、教育、給与モデル、職場体験等、各項目に入らない内容を丁寧に記載するなどのアドバイスをいただきました。労働条件や労働環境を重視する求職者も多いため、採用に向けた体制づくりを始めることが大切だということがありました。

農業現場で働きたい人が、何に魅力を感じ、何に不安を感じているのか、何を求めて働こうとしているのかを、今一緒に働いている社員とともに考え、求める人材を想像した求人や採用に取り組んでほしいという話があり、社内での検討を深める良いきっかけになったようです。

○家族経営協定研修～一緒に描く未来のかたち～が開催されました 令和8年1月27日 仙台農業改良普及センター



令和7年12月19日に、家族営農における「経営と生活の境目」を明確にし、役割分担、男女参画を目的に「家族経営協定」の事例を学ぶ「家族経営協定研修～一緒に描く未来のかたち～」を開催し、女性農業者や新規就農者など14名が参加しました。

始めに、まず普及センター担当者から「家族経営協定」の制度について説明を行いました。

次に、今年度家族経営協定を締結した農業者および協定締結から年月が経過し、見直しを検討している農業者から講演いただきました。いずれの発表者も経営継承を視野に入れて締結したこと、協定締結による制度上のメリットを意識したこと等の説明があり、参加者から質問が多くなされ、活発に意見交換が行われました。

講演終了後は昼食交流会が行われ、「もろやファームキッチン」の自家野菜をふんだんに用いたランチを味わいながら、参加者同士で交流を深め、講演の感想や家族営農での体験談等について多岐にわたる意見が交わされました。

参加者からは「家族経営協定について知ることができよかった」「帰ってから、家族に研修内容を教えたい」との感想が寄せられました。

普及センターでは、女性農業者をはじめ多様な人材が活躍できるように、今後も研修会等を開催して資質向上を支援していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○「輝く女性農業者のための美肌習慣。プロが教える「攻めの」の紫外線対策！」を開催しました 令和8年1月15日 亘理農業改良普及センター



農作業に従事する女性の「お肌を守るため、紫外線対策をなんとかしたい」という切実な声に応えるた

め、令和7年12月16日に美容のプロである株式会社メナード化粧品東北支社の専門家を講師とし「紫外線対策と美肌ケア」をテーマに研修会を開催しました。

講義では、紫外線の正体やシミ、皺が作られるメカニズムについて説明いただき、日々の紫外線対策は、①汚れを落とす、②潤いを与える、③日焼け止めクリームを正しく使うなどのポイントをわかりやすく御教授いただきました。特に、洗顔については、正しい泡立て方法を実習し、きめ細かな泡立てを行うことで美肌に繋がることに参加者は驚いていました。

参加者からは、「正しいケアを知って自信を持った」、「忙しいと肌の手入れに時間をかけることが難しいが、これなら続けられそう」などの感想が聞かれました。

普及センターでは、女性農業者に寄り添いながら、その時々ニーズに沿った研修会を実施することで、女性農業者の活躍を支援してまいります。

○女性農業者キャリアアップ講座を開催しました 令和8年1月26日 石巻農業改良普及センター



令和8年1月22日に女性農業者キャリアアップ講座「農作業を快適にする賢い服選び」を開催しました。

総合作業用品店「プロノ」を展開し、作業服について深い知見を持つハミューレ株式会社の専門家を講師とし、夏の作業を快適にする作業服や安全性を向上させる作業服、機能性とデザイン性について講義いただきました。特に、冷却ウェアについてファン付き作業服以外にもペルチェ式や水冷服などの特徴をわかりやすくご教授いただいたことで参加者の関心が高まり、活発な質疑応答がなされました。

参加者からは「初めて知った冷却ウェアもあるので、昨年購入したアイスベスト以外も検討してみたい」との感想が聞かれました。

③先端技術等の推進・普及による経営効率

○令和7年度登米地域スマート農業推進セミナーを開催しました 令和8年1月5日 登米農業改良普及センター



令和7年12月24日、中田町農村環境改善支援センターを会場に、登米市及び登米農業改良普及センター共催で「令和7年度登米地域スマート農業推進セミナー」を開催しました。

当日は生産者、関係機関含め約50人の参加があり、普及センターからはスマート農業技術の導入にあたっての導入効果の実証事例を紹介しました。また、株式会社ISEKIJAPAN東北カンパニーとクボタアグリサービス株式会社及び株式会社クボタから講師をお招きし、営農管理システムの「アグリノート」と「KSAS」について、活用事例紹介や操作方法のデモンストレーションなど、分かりやすく説明いただきました。さらに、近年導入の増えているドローンと営農管理システムの連携についても説明があり、生産者の関心も高い様子でした。

労働力不足への対応や作業の省力化・労力軽減、生産性の向上へ、今後ますますスマート農業技術の導入が不可欠となっています。その中で、営農管理システムは効率的な営農管理やよりの確な経営判断の高度化に重要であり、その導入に向けてきっかけとなるセミナーとなりました。

○令和7年度水稲乾田直播栽培総合検討会を開催しました！ 令和8年1月27日 仙台農業改良普及センター



当普及センターでは、令和6年度から黒川地域で水稲乾田直播栽培（以下、乾田直播）に取り組む5つの農業法人を対象に、水稲の安定生産、経営面積拡大に向けたプロジェクト課題として活動しています。

2年間の活動を踏まえ、水稲乾田直播栽培の課題を整理し、生産性の向上を図るため、令和8年1月14日に令和7年度水稲乾田直播栽培総合検討会を開催しました。

はじめに、普及センターから今年度の生育調査結果について情報提供し、プロジェクト課題対象5法人とこれまでの乾田直播の課題について検討しました。今回は、講師として農研機構東北農業研究センターの関矢研究員と高橋農業技術コミュニケーターを迎え、今後の課題であるほ場準備や肥培管理、雑草対策について助言をいただきました。生産者同士でも活発に意見交換が行われ、来年度以降の作付けに弾みがつきました。

当普及センターでは、乾田直播の技術定着、面積拡大に向けて引き続き生産者を支援してまいります。

○令和7年度仙台地方米づくり推進本部～水稻乾田直播栽培講習会～を開催しました！
令和8年1月27日
仙台農業改良普及センター



令和8年1月14日に令和7年度仙台地方米づくり推進本部～水稻乾田直播栽培講習会～を開催しました。講師として、農研機構東北農業研究センターの関矢研究員と高橋農業技術コミュニケーターを迎え、水稻乾田直播栽培（以下、乾田直播）に興味のある管内の生産者50名以上が参加しました。

講義では、乾田直播成功のポイントとなるほ場準備や雑草防除について、今年の事例を挙げながら重点的に解説していただきました。また、事例紹介として、プロジェクト課題対象法人から、「育苗の労力がなくなったため、導入して良かった」、「収量向上のためにほ場に合わせた肥培管理をしていきたい」など、導入した感想や今後の課題について話していただきました。

参加者からは、出芽時期の判断や除草剤散布のタイミングなどについて質問が出ており、乾田直播への理解を深める場となりました。

当普及センターでは、乾田直播の技術定着、面積拡大に向けて引き続き生産者を支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○南三陸ぶどう栽培せん定研修会を開催しました
令和8年1月5日
気仙沼農業改良普及センター



令和7年12月22日、南三陸町を会場に管内の生産者を対象にした南三陸ぶどう栽培せん定研修会を開催し、管内生産者・関係機関等20人が参加しました。農業・園芸総合研究所果樹チーム職員が講師となり、冬期の重要な栽培管理である整枝せん定や、芽傷処理等のせん定後の管理について、実演を交えて説明がありました。参加者からは多くの質問が挙げられたほか、活発に意見交換をする様子が見られ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後も果樹の安定生産に向けた支援を行ってまいります。

○あじわいの朝友の会種苗勉強会が開催されました
令和8年1月22日
大河原農業改良普及センター



令和8年1月15日、柴田町であじわいの朝友の会種苗勉強会が開催されました。参加者は友の会の会員約40名、講師として農業メーカーや普及センターが出席しました。

普及センターからは、果菜類の生理障害や肥培管理、直売所で売れる野菜についての講演を行い、農業メーカーからは、農作物の害虫についての講演がありました。また、それぞれの講演の後には、活発な質疑応答が行われました。

普及センターでは、今後も継続して栽培技術指導や直売所運営指導を行ってまいります。

○JA仙台岩沼ハウス組合促成胡瓜現地検討会が開催されました
令和8年1月29日
亘理農業改良普及センター



令和8年1月16日、JA仙台岩沼ハウス胡瓜組合の促成胡瓜現地検討会が開催され、組合員、関係機関合わせて9名が参加しました。

組合員のは場を巡回し、きゅうりの生育状況を確認しながら、今後の管理について検討しました。冬至前の12月中旬定植のきゅうりは、本葉が15枚ほどになり、子づるも3〜4本出ているなど、順調に生育し、一部では収穫が始まっていました。

今後、日が長くなると徐々に日射量が増し、日中の高温、夜間の低温と気温が乱高下を繰り返す中、温度や湿度管理などハウス内環境を整えるには、細やかな管理が必要となります。

講師の松本氏（埼玉原種育成会）からは、今後の温度や湿度管理のほか、樹勢維持の肥培管理等について御指導いただき、普及センターからは、昨年の春先の気象状況と今後の気象予想などの情報を提供しました。

普及センターでは、今後も関係機関と協力し、岩沼きゅうりの収量向上と安定生産に向けて支援していきます。

○JAみやぎ登米りんご生産部会せんだい講習会・防除暦説明会が開催されました

令和8年1月29日

登米農業改良普及センター



令和8年1月21日、JAみやぎ登米りんご生産部会主催の「せんだい講習会・防除暦説明会」が開催され、部会員約20人が参加しました。

午前のせんだい講習会では、中田町の園地にてわい性台木の「ふじ」を対象とし、農業・園芸総合研究所果樹チームの庄司研究員が実技指導を行いました。主幹頂部の切り下げや下垂した側枝の切り上げ方法など、講師による実演を交えながら、参加者同士で活発な議論が交わされました。また、作業の合間には昨シーズンの園地の状況や生育環境について情報交換

が行われるなど、生産者間の親睦を深める有意義な交流の場となりました。

午後の部では、普及センターより昨シーズンの振り返りとともに、令和8年産に向けた防除暦の説明を行いました。農薬の登録変更情報や鳥害対策への情報提供のほか、登録失効となる農薬の代替品の紹介を行ったところ、具体的な使用方法について参加者から次々と質問が寄せられ、非常に活発な意見交換となりました。

当普及センターでは、今後もりんごの高品質・安定生産に向けた支援を継続してまいります。

○令和7年度河南トマト部会出荷反省会が開催されました

令和8年1月30日

石巻農業改良普及センター



令和8年1月26日にJAいしのまき主催の河南トマト部会の出荷反省会が開催され、7人の生産者が参加し、今年度の出荷の振り返りを行いました。

今年度は猛暑の影響により着果不良となり出荷数量は減少したものの、秋口の価格高騰が下支えとなり、最終的な販売金額は微減にとどまる結果となりました。これを受け、来年度以降の高温対策について活発な議論が行われ、遮光資材の活用や水管理の見直しなど、具体的な改善策が挙げられました。猛暑下においても安定的な収量を確保できるよう、関係機関との連携を一層強化し、生産者の皆様に支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○令和7年産稲作の総合検討会が開催されました

令和8年1月5日

登米農業改良普及センター



令和7年12月5日にJAみやぎ登米産米稲作経営部会総合検討会、12月11日にJAみやぎ登米米山水稲部会総合検討会、12月25日にはJAみやぎ登米東和稲作部会総合検討会がそれぞれ開催されました。

令和7年産は高温に加え、水不足も発生し、大変厳しい環境下での栽培となりましたが、生産者をはじめ皆様のご尽力により、登米市の1等米比率は95.4%（11月末時点）と昨年を上回る品質となっています。各検討会とも多くの部会員が参加し、次年産への意気込みが感じられました。

普及センターからそれぞれの会場で、令和7年産の稲作の総括と令和8年産の作付けのポイントを説明しました。近年における斑点米カメムシ類の発生量や大型種の発生増加などに関する情報は関心の高い様子でした。また、高温時の水管理として飽水（ほうすい）管理（水田の足跡に水がなくなる頃に田面が浸るくらいに水を入れる管理）が品質向上、また、用水不足が懸念される時の水管理としても有効であることを周知しました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○「乾田直播とカメムシから今後の稲作を考える」をテーマに研修会を開催しました

令和8年1月6日

登米農業改良普及センター



令和7年12月17日、米づくり推進登米地方本部主催で、「乾田直播」と「斑点米カメムシ」をテーマとした稲作研修会が開催され、生産者等約40名が出席しました。

農研機構東北農業研究センターの屋比久貴之主任研究員からは、水稻乾田直播で使用する機械、作業の流れやポイント等について、具体的に数字も示しながら、初めて取り組む方に対してもわかりやすく説明していただきました。

宮城県病害虫防除所の西條和彦技術主幹からは、県内の斑点米カメムシの発生状況や被害の特徴、また従来より大型の斑点米カメムシが増加していることについて説明がありました。

その他、普及センターのプロジェクト課題として取り組んでいる「環境負荷軽減型水稻乾田直播種栽培」についても紹介しました。

担い手への農地集積や生産者の高齢化に伴い、乾田直播栽培面積はさらに増加することが見込まれ、斑点米カメムシも防除の重要性が一層高まると思われます。登米地域の水稻生産のため、普及センターは今後とも技術支援と情報提供を続けてまいります。

○JA仙台亘理地区水田営農部会研修会が開催されました

令和8年1月27日

亘理農業改良普及センター

令和7年12月16日にJA仙台亘理地区水田営農部会主催で稲作の次年度対策に向けた研修会が開催されました。

最初に同部会の末木部会長から、今年のコメの高騰や生産に関わる政府の動きなどを交えながら挨拶がありました。

研修内容は、まず、普及センターから「令和8年産稲作へ向けた技術対策について」、今年作柄やその要因と、次年度への対策を説明しました。続いて、農業機械メーカーから「乾田直播用機械について」機械の特徴や初期投資費用の説明がなされ、最後に、カーボンプレジットの取組を支援する会社から「Jクレジットについて」と題して、制度の概要や申請等の説明がなされました。

参加者からは、高温耐性品種や乾田直播用機械の使用のポイント、Jクレジットの具体的な取組事例などについて質問が出されました。

普及センターでは、今後も水稻の安定生産に向けて支援を行ってまいります。

◎地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○組織マネジメント研修会を開催しました

令和8年1月27日

仙台農業改良普及センター



令和8年1月13日に、大和町吉田沢渡地区の担い手である農業法人を対象とした「組織マネジメント研修会」を開催しました。研修会では「組織運営と経営者の役割・責務について」と題し、組織を運営するうえで留意すべきポイントや、農業法人においてPDCAサイクルを回す重要性等について学びました。

講義終了後は講師と農業法人による意見交換が行われ、法人の現状や営農の方針などを整理しながら、同法人の今後について参加者全員が真剣に議論を行いました。

普及センターでは、地域農業の担い手の経営指導をはじめ、中山間地域の営農を支援してまいります。

2. 持続可能な農業・農村の構築

① 要請・緊急対策、その他

○第2回大河原地域農業普及活動検討会を開催しました

令和8年1月30日

大河原農業改良普及センター



令和8年1月29日に大河原地域農業普及活動検討会を開催しました。今年度2回目となる今回は、今年度終了のプロジェクト課題①「仙南たまねぎの環境に配慮した栽培方法による生産拡大」と②「地域農業の維持・発展に向けた地域計画の作成と実践」の2課題について検討しました。

①では、たまねぎ栽培におけるリビングマルチの導入による害虫抑制効果だけではなく、作業性や経費削減効果などについての質問があり、高収益作物の一つとして期待が寄せられました。また、②では、水稻の栽培研修会や経営継承に係る専門家からの支援を交えながら話し合いを進めた結果、「農地の集積から集約」へ、今後も継続した話し合いの必要性が認識されたと報告がありました。

最後に、次年度の普及指導活動計画について、各委員それぞれの視点からご意見や評価をいただきました。

普及センターでは、今回いただいたご意見を来年度の活動に生かしながら、引き続き、効果的な普及活動に努めていきたいと思っております。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亙理>
〒989-2301
亙理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.228

発行日:2026年2月24日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@PRef.miyagi.lg.jp